

# 法人の職員採用活動

すずらんの会の人材確保について、主に新卒採用の大きな要となっているのが、法人職員で構成されている委員会の一つ、人材採用推進委員会です。ここでは、その人材採用推進委員会の取り組みについてご紹介します。

## 人材採用推進委員会での取り組み

主な取り組みとして3点あります。

### ① 法人説明会や1dayお仕事体験（就業体験）の実施

#### ◆新卒就職活動中の方へ向けた法人説明会

就職活動が解禁される3月から月2回程度の頻度で説明会を実施しています。

- ・法人の概要（すずらんの会の仕事内容について）
- ・入職後のフォローについて
- ・先輩職員との座談会
- ・事業所見学

#### ◆1dayお仕事体験（新卒に限らず）

就業体験を通じて、障害福祉分野の理解を深める機会の提供を行なっています。

- ・大和市障害者自立支援センター（就労移行支援事業）の利用者プログラム体験
- ・法人概要、仕事内容、入職後のフォローについて
- ・先輩職員との座談会
- ・ワークセンターやまと（就労移行支援事業・就労継続支援B型）での作業体験
- ・振り返り

オンライン化が進み、対面のみでなくオンラインと併せたハイブリット形式で法人説明会を行うかたちが出来ました。遠方の学生も気軽に参加出来るようになり、法人を知って頂く機会が増えました。1dayお仕事体験では、就業体験の場以外の先輩ともオンライン上で交流ができ、様々な視点で法人を知って頂く機会となっています。構成メンバーには学生時代に法人説明会に参加し、入職した職員も配置されており、座談会においても学生とより近い目線での話や年の近い先輩職員との交流の機会となっています。

### ② 内定者向け先輩交流会

内定が決まった学生が安心して入職できるよう、先輩職員との交流の機会を設けました。若手職員との交流、法人内の事業所見学を実施し、入職前の不安の軽減、入職後のイメージ作り、先輩職員との顔みえる関係作りをねらいとし進めています。

### ③ 採用ホームページの管理

人材確保に向け、求人サイトツールの利用検討、当法人に興味を持つ学生を増やすためのサイト作りを目指しています。

#### <今後の取り組みについて>

就職活動を進めている学生に障害福祉分野や当法人の魅力をお伝え出来るよう、情報発信や説明会を通し人材確保に向けた取り組みを進めていきたいと思っております。

## 法人の説明会参加後、2023年4月に入職し、現在は人材採用推進委員である石塚職員にお話を伺いました。

Q.学生時代、すずらんの会の説明会に参加した際、どう感じましたか？（内容、職員の雰囲気など）

内容としては、法人概要、職員の業務内容、新人のフォロー、待遇関係、選考などについての説明を受けた後、自立支援センターの施設見学を行いました。

暖かく迎え入れてくれ、親身に話を聞いてくれたなと感じています。質問も細かいところまでできました。

固すぎず、緩すぎず、程よい距離感と雰囲気でした。

Q.現在、採用活動に携わる側になり意識が変わった部分はありますか？

学生の時はかしまって緊張して参加しましたが、職員側だと、学生にはもっとラフな感じで気軽に参加して欲しいなという考えになりました。その為、現在は緊張をほぐす雰囲気づくりを意識しています。

Q.説明会や内定者向け先輩交流会の際に、意識していることはありますか？

学生がどこを知りたいのかという学生目線と、職員として法人側が伝えたいことの両方をどう伝えるのか、現在の自分の立場でできることを意識しています。

職員になって、各事業所の雰囲気もそれぞれ違うことを実感したため、説明会では、オンラインで参加してくれた学生さんに、施設見学は一度来てみるといいとお勧めしたりなど、自分の経験上よかったと思うことを勧めています。

### 編集後記

今回はグリーンハウスをご紹介しました。

それぞれの事業所で様々な特徴があることを改めて認識しました。今後も、利用者の方々の変化や社会の変化などに対応していけるよう、法人全体で取り組んでまいります。

（広報委員会）

# 広報 すずらん

発行日：2024年4月1日（創刊：1996年/平成8年）

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>

所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台 7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集：広報委員会

第91号  
2024年4月

## 新年度を迎えて 理事長 松屋 直人

新たな年度を迎えるにあたり、今年度も適切かつより良いサービスの提供に向けて、職員一丸となって挑戦していきたいと思っております。

さて、今年度は、3年に1度の報酬改定の年となっています。障害福祉サービスでは、改定率が+1.12%とのことですが、最近の物価や人件費の上昇傾向から、この報酬単価が3年間継続されると考えると、適切な運営ができるのかと不安にならざるを得ません。

就労系においては就職定着率や平均工賃等の実績による基本報酬額の差異が広げられ、生活介護や児童通所では個別のサービス提供時間による基本報酬の設定が行われました。頑張れば高い報酬が得られるということなのでしょうが、どこかが増額されれば、どこかが減額されるということ

では、無理な支援につながるのではと懸念しています。

今回の報酬改定と今後の流れを見極め、事業の運営方法等の見直しを適切に行っていきたいと思っております。

昨年5月から新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ第5類へ変更され、感染者の発生にも冷静に対応することができるようになって来たのではないのでしょうか。今後も感染対策を適切に行い、イベントや行事についても、可能な限り中止せず、適切な形で実施していきたいと思っております。

年々厳しくなる職員確保の課題はありますが、今年度も、適切でより良いサービスの提供に努めてまいりますので、皆様のご支援とご鞭撻のほど、宜しく申し上げます。

## ほっこり通信

私が働いている『すずらんの家』では、就労継続支援B型事業と生活介護事業のサービスを提供しており、主に製菓作業にて手作りお菓子の製造・販売を行っております。利用者、職員全員で力を合わせて毎日お菓子作りや販売に、励んでおります。

忙しく毎日をお過ごししていく中で、“朝の時間”や“お昼休み”“帰りの時間”に、色々な利用者の方と話すことで、ほっこりさせてもらっています。

朝の時間では、「昨日髪を切りに行きました。」「昨日ドラえものの映画を観に行きました。」など、休みの日をどう過ごしたかなど教えてくれます。お昼の休憩では、「折紙上手に出来ました。」「塗り絵が上手く塗れました。」「帰りの時間では、「帰ったら散歩に行きます。」「今日は22時に寝ます。」など、利用者の方がご自身の事を話してくれて、そこから色々な会話に繋がっていきます。

私はすずらんの家に来てから2年目になりますが、今振り返ると、1年目は色々な事に必死で、楽しく会話をする余裕がなかったと思います。2年目になり、色々な事に慣れてきて、利用者の方との会話が増えました。1年目の時は利用者の皆さんも、私の緊張を察して、あまり話しかけられなかったのかな、と思いました。

日々の利用者の皆さんとの他愛もない会話が、私にとって毎日を楽しく、また忙しい日々の中で、ほっこりさせてくれる時間だと、実感しています。

すずらんの家 熊田あさ子



ご寄付をいただきました。  
ランディット株式会社 様  
株式会社東商テクノ 様

この度はご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。ご厚意に深く感謝を申し上げます。



## グリーンハウスってどんな施設？

1990年に法人が設立されてから9年後に知的障害者授産施設として開所し、現在は就労継続支援B型事業、生活介護事業の多機能事業所として運営しています。利用されている方々の年代は10～70代と幅広く、知的障害のある方が中心に通われています。

利用されている方の就労支援を行っている中で、期限内での就労が困難なケースもあります。そのような継続した訓練・通所の場を必要とする方々の為に、グリーンハウスが開所しました。利用期限を設けないグリーンハウスでは多くの方が長年に渡って通所を継続しています。利用される方のニーズに寄り添いながら変化し、今年開所25年目を迎えるグリーンハウスの現在の取り組みをご紹介します。

## 作業と活動

### ◆就労継続支援B型事業（定員40名）

働く場として3班体制で、作業支援を提供しています。就労へのステップアップの場として一般企業内に場所を借りて行う、施設外就労支援も実施しています。幅広い作業種があることで様々な特性のある方への作業提供が可能となっています。

#### ① 受注班：企業下請け作業

☆作業内容：ネジ留め、ワッシャー、贈答品封入、袋入れ、タオル検品・たたみ 等



ワッシャー作業の様子

タオルたたみ作業の様子



Aさん  
50代男性

部品入れ、ワッシャー、ネジ留め、布作業などを行っています。ワッシャー作業が得意です。車に乗って納品に行くこともあります。

#### ② パン班（スワンペーカーいさがみはら）

☆作業内容：パン製造・販売作業 等



トッピング作業の様子

ラベル貼り作業の様子

パンのトッピングの作業や、製造室の清掃作業を行っています。トッピングのお仕事が好きです。失敗ないように気を付けてがんばりたいです。



Bさん  
40代女性

## 事業所紹介

# グリーンハウス

## （生活介護・就労継続支援B型）

### ③ 環境整備班

☆作業内容：除草、剪定、清掃作業 等



除草作業の様子

草取りをがんばっています。小さい草まで取るのが大変です。これからもグリーンハウスでお仕事を続けたいです。



Cさん  
30代男性

### ◆生活介護事業（定員20名）

#### ○活動班

受注作業に加え、運動活動や創作活動など、心身を整えるプログラムに、和やかな雰囲気で行っています。週1回看護師による健康チェックを行い、ヨガ講師を招いてのプログラムも実施しています。



軽作業の様子

体操の様子

#### Dさんのスケジュール

- 9:30 作業（部品の組み立て等）
- 11:00 活動（ゲーム、塗り絵等）
- 11:30 体操
- 12:00 昼食
- 12:50 歯磨き、体操
- 13:30 作業（部品の組み立て等）
- 15:00 活動（塗り絵、折り紙、パズル等）

一人一人に合わせたスケジュールを組んでいます

もともと受注班にいましたが、体力が落ちて休みがちになっていました。職員の勧めで活動班に移ってからは、自分に合ったスケジュールで過ごせるようになり、お休みもなくなりました。これからも活動班の利用を続けていきたいです。



Dさん  
50代女性

#### <表彰式>

グリーンハウスでは、モチベーションを維持する一つの工夫として、毎月利用者の方の表彰を行っています。表彰されるのは、個別支援計画の目標に取り組みの方、新しいことに挑戦した方等です。表彰の機会があることで、職員も利用者の方の良いところをみて、表彰につながるような支援をする意識を持つことができます。

## 課題別グループ

事業所独自の取り組みとして、個々の特性に応じた少人数でグルーピングした活動を行っています。年2回、土曜日に実施。

グループ	目的
興味と発見	楽しむことで心の安定を図る。 興味と発見の感情を刺激することで、生活の楽しみの幅を広げる。 例) 外出企画の振り返り、絵日記作成
ストレスマネジメント	ストレス対処法、解消法を学ぶ。 自己認知と他者理解を学ぶ。例) 幸せ共有カード作成、リフレッシュ運動
パターンスキル学習	困った時の助けの求め方を学ぶ。 例) 助けを求める練習会
マナー学習	ソーシャルストーリーを用いて、マナーの存在する色々な場面を学び、その理由を知る。例) 自己紹介カード作成、マナーO×クイズ
世代交流	仲間との交流を通して、コミュニケーションのプレッシャーを解く。 例) チーム対抗ミニ運動会
運動	運動による発散。社会的マナー学習。 例) ウォーキング



興味と発見グループ

世代交流グループ



運動グループ

課題に対する取り組みだからと固くならず、ゲームや創作、運動を通じて、楽しく学べるよう工夫しています。また、課題別グループで取り組んだ内容を日ごろの支援の中にも活かし、定着を図っています。所属班に関係なくグルーピングする為、職員・利用者双方とも普段関わらない人と関わることができるのが課題別グループのメリットの一つでもあります。利用者の方は他の班の職員と関わることを楽しみにしてくれており、職員も他の班の利用者の方のことをよりよく知る機会になっています。

## 行事

年5～6回、土曜日に施設行事を実施しています。毎回、8割以上の人が参加され、みなさん楽しみにされています。



映画鑑賞

新年の会



ピュアハート展作品作り

## 利用者の会

利用者の方が中心になって施設の活動に取り組んでもらうための組織で、職員は活動のサポートを行っています。毎年選挙を行って委員を決めています。

## 職員育成

支援の質を高める為、事業所独自の勉強会を実施しています。接遇やソーシャルスキルのワークを実施したり、研修動画を視聴して話し合いをしたりして、職員のスキルアップを図っています。

## 高齢化への対応

グリーンハウスを利用している方々の平均年齢は50歳程度、最も年齢が高い方は70代で、ご本人・ご家族の高齢化への対応が求められています。

事業所として利用者の方のニーズに応える為に、生活介護の定員を増やすなど対応してきました。日々の支援の中では、利用者の方の変化に早めに気づいて対応し、必要に応じてグループホームや成年後見制度などの情報提供も行っています。最近では、介護保険サービスを併用する方も出てきています。介護保険のリハビリに通うことで身体の状態が良くなり、グリーンハウスでの作業にも意欲的に取り組めるようになった方もいます。

## 今後の展望

最後にグリーンハウス齋藤係長に今後の展望を伺いました。『グリーンハウスには、将来一般企業への就職を目指している方、働く場を必要としている方、自分らしく活動する場を求めている方など、様々な希望を持って通所してきている利用者の方がいます。職員は、利用者の方や社会の変化を察知しながら、ニーズに合わせた作業や活動を提供してきました。これからも、それぞれの希望に沿って利用していただける施設でありたいと思っています。』



編集：広報委員会